

市政2年目がスタートした迫俊哉小樽市長は、9月26日(木)11:15から、市役所(花園2)市長応接室で定例の記者会見を開き、「観光税の問題解決の加速化」や「日本遺産等の文化財を活用したまちづくり」、「学校のあと利用」の3つの問題を上げ、第3回定例会で指摘があった多くの課題にも、しっかりと検討していきたいとした。

10月8日(火)から12日(土)まで、姉妹都市ナホトカ市やウラジオストクを訪問。市長を団長とする親善使節団と、港湾部担当とする経済交流を目的とした使節団の2班で実施。

小樽商科大学本気プロの学生1名が同行し、日本領事館や日本センター等を訪問。直行便で観光PRをし交流の糸口を見つけないとした。帰国後は、報告会を実施する予定。



市からの報告事項として、

○2018(平成30)年度に実施した、小樽市総合博物館の蒸気機関車アイアンホース号の修繕にかかる費用を集めるためのクラウドファンディングに、364件800万円もが集まり、多くの支援の輪が広がった取り組みが高く評価され、鉄道史学会の住田奨励賞を受賞した。

○小樽港が商港として指定され150周年・外国貿易港に指定され120周年を迎え、これに合わせ10月6日(日)10:00~15:00に、小樽港第3号埠頭岸壁13番・14番・17番・18番で、官公庁船舶一般公開を開く。

各機関船舶の一般公開をはじめ、小樽開発建設部業務艇による小樽港周遊、各機関のイメージキャラクターやグッズ販売によるPR、たるしえ等による物産販売を実施する。

各機関船舶の一般公開をはじめ、小樽開発建設部業務艇による小樽港周遊、各機関のイメージキャラクターやグッズ販売によるPR、たるしえ等による物産販売を実施する。

○市民税非課税者や子育て世帯向けプレミアム付商品券を10月1日(火)から販売。購入額20,000円で、5,000円のプレミアが付き25,000円が使用できる。

市民税非課税者は、小樽市財政部市民税課から送付される「小樽市からのお知らせ」に同封されている申請書で、小樽市プレミアム付商品券事業実施本部に申請し、審査後、送付される引換券により商品券を購入。子育て世帯は、同実施本部から送付される引換券で商品券を購入。

加盟店舗は約600店舗。商品券は2020(令和2)年3月31日(火)まで使え、商品券の販売は、2020(令和2)年2月28日(金)まで。

次回の定例記者会見は10月31日(木)11:00の予定。

官公庁の船舶6隻 6日に小樽港集結

開港120周年 第3埠頭で一般公開

小樽市の迫俊哉市長は26日の定例記者会見で、小樽港の開港120周年を記念し10月6日、市内や近隣に拠点がある官公庁所属の船舶6隻を第3埠頭に集めて一般公開すると発表した。

一般公開は同日午前10時〜午後3時がめど。9月20日に就航した小樽市の新造船タグボート「たていわ丸」、小樽海保の巡視船「しれとこ」、小樽税関支署の監視艇「かむい」、海上自衛隊余市防備隊のミサイル艇「わかたか」、小樽開建の港湾業務艇「ひまわり」、

小樽海上技術学校の練習船「はりつす」が集まる予定。それぞれ船内を見学でき、「ひまわり」は午前と午後1回ずつ港内を周遊する。

市港湾振興課によると、開港110周年の記念行事でも官公庁所属の船6隻が小樽港に集合したが、うち3隻は小樽海保の巡視船だった。同課は「今回はよりバラエティーに富んだ船を見られる。めったにない機会なので多くの人に来てほしい」としている。

また市長は10月8〜12

日、親善使節団の一員として姉妹都市のロシア・ナホトカ市を訪問すると明らかにした。使節団には初めて小樽商大の2年生1人を加える。迫市長は「7月に小樽に来たナホトカの少年少女使節団との交流に、『商大生が小樽の活性化を本気で考えるプロジェクト』の履修生が尽力してくれた。実際に現地に行つて見聞を広めてほしい」と話した。

小樽市とナホトカ市はほぼ10年ごとに使節団を送り合い、2016年度には姉妹都市締結50周年を記念しナホトカ市使節団が小樽を訪問。17年度に小樽市使節団がナホトカ市を訪れた。今回は市職員時代からナホトカ市と親交があった迫氏の市長就任を機に来訪要請があった。(渡辺佐保子)